

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 63 号

2016 (平成28) 年6月18日 (土)

ことば も ちから ころろ ゆた ちから 「言葉の持つ力」は「心の豊かさの力」

てらこや ろんごじゆく しゆさい にった おきむ
寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

この葉協はきょうかい会主しゆさい催、第6回言の葉大賞『言葉の力』を感じるかんときⅡ』が柿本書房より出版しゆばんされました。全国の小・中・高・大・社会人合わせて14,173点の作品の応募があり、入選・入賞の161点の作品が収められています。

800字の文字に表現された作品は、どれも体験談を通して自分の言葉で語られているものばかりで読む人の心を揺さぶります。

塾生のみなさんは3月の論語塾で、孔子が述べた「辞は達するのみ」という章句を学びましたね。その時、補助テキストの「私のひとり言」の項目に関わって先生が話した内容を思い起こして見て下さい。

確か次のように話したと思います。「自分が感じたことを自分の言葉で豊かに表現できなければ、相手に自分の気持ちは伝わりません。そのためには、普段から本を読む習慣を身に付けておくことも大切でしょうし、素敵な音楽や芸術にふれて感性を磨いていくことも必要なのです。つまり、言葉の持つ力は、心の豊かさの力に比例するのです。」と。

今回の161点の作品の中で最年少(小2)女兒が綴った「妹のいっちゃんへ」を紹介しましょう。なお、文章は本人が書いたそのままを掲載しますので仮名はふりません。

いっちゃん、天国でしあわせにくらしている？天国は、どんなよう子なの？ごはんは雲のわたあめなの？ふとんは雲のふわふわベットなの？いいなあ。ふくは雲のひつじふくなの？あったかそうだね。お姉ちゃんは今、ピアノとバイオリンをならっているよ。だからもっとじょうずになって、聞かせてあげるね。学校は楽しいよ。みんなで楽しくおべんきょうして、おいしいきゅうしょくもたべられるよ。中休みや昼休みにおなががすいたら、学校のうらに行つてぶどうやラズベリーやくわのみがたべられるんだよ。みんなでおそうじもできるよ。

いっちゃん、生まれてきたかったよね。お姉ちゃん、その気もちわかるよ。いっちゃんに学校の楽しさを知ってもらいたかったよ。いっしょに学校にも行きたかったなあ。でも、空を見るとおうえんしてくれてるんだなってわかる。できないこともいっちゃんのおかげで、できるようになったよ。てつぼうのさか上がりや水えい、それにとびばこの四だんとび、なわとびのばってんとび。

いっちゃん、ありがとう！
学校で友だちとかぞくの人数の話をしていた時、
「志穂は何人かぞく？」って聞かれたから、「四人かぞくだよ」ってこたえたよ。
いっちゃんのことともだちに教えたら、友だちが「志穂も四人かぞくだね」って言うてくれたんだよ。いっちゃんのことを友だちもわかってくれてすごくうれしかったんだよ。

お父さんとお母さんとお姉ちゃんは元気だよ。いっちゃんのこと、一日だってわすれたことはないよ。いつも心の中にいるよ。いっちゃん、もう会えないの？会いたいよ。どこかで生きてるってしんじて、かえりをまっているからね。

この作品のもとになる出来事は、志穂ちゃんが2才の時、母親が流産して小さな命を天に送って、残されたエコー写真に小さな花を供えて一緒に手を合わせたことに始まります。いっちゃんへの姉としての思いが綴られたこの文章の中にこそ、まさに冒頭の「言葉の持つ力」と「心の豊かさの力」の見事な両立を感じることができるでしょう。